



なつかわ・たつや
京都大学在学中に落語家の桂三枝氏に師事し、卒業後、吉本芸人としてTV、舞台、映画、ラジオとさまざまな分野で活動をスタート。一方、自ら会社を設立し、10数年にわたり経済活動に携わる。また、豊中青年会議所に入会、第37代理事長に就任。それらの活動や経験から、人を楽しい気分にする笑いの重要性に、心理学的アプローチや脳内プロセスの構築を加えた「パワー・コミュニケーション」を開発。全国各地でセミナーや講演会を開催している。おもな著書に「パワー・コミュニケーション」(中央経済社)などがある。

伸びる会社に「笑い」あり!

「志縁塾」コミュニケーション・プロデューサー

夏川立也

職場に「笑い」はあるだろうか……。ふだんは気にもとめていないだろうが、「笑い」の有無によって、場の雰囲気、モチベーション、仕事の能率、コミュニケーションなどのあらゆる部分に差が生じ、業績を左右するといっても過言ではないのだ。実際、伸びている会社というのは雰囲気明るく、社員も元気でポジティブなもの。そこで職場に「笑い」を取り入れ、生かす方法について、「研修は究極のエンターテイメント!」を全国で展開する志縁塾のメンバーの夏川立也さんに聞く。

「笑い」とは「よい気分」ポジティブ」にさせること

「笑い」について、改めて考えてみたことがありますか。

私が「笑い」の効用に着目したのは、15年ほど前のことです。もともとお笑いが大好きだったこともありますが、会社を設立して、経営者としていろいろな会社とかかわってきた中で、ある傾向に気付いたのです。頑張っている会社や業績を上げていく会社は、例外なく職場の雰囲気が明るい、と。会社を訪問すると元気な声であいさつされたり、打ち合わせで前向きな発言が多かったり……。とにかくポジティブなのです。

会社がうまくいっていると雰囲気も明るくなるのだとすれば、明るい雰囲気づくれば職場に活気が生まれ、業績にもつながるのではないかと……。そう考えました。

実際、明るい雰囲気の職場にはいいことがたくさん起こります。例えば、社員のモチベーションアップです。人は明るい環境に身を置くと

「笑う門には福来たる」——いつも楽しそうにニコニコしている人の家には幸せがやってくるという意味のことわざだが、これは職場にも通じる。

人間関係を円満にしたり、社員をやる気にさせたり、仕事の能率をアップさせたり、心身をリラックスさせたり……。そんな「笑い」のさまざまな効用が広く知られるようになり、職場の活性化に役立っている企業が増えている。

「笑い」くらいで、そんな大きな……」と思っただけではない。「笑い」のない職場では、仕事の実績が上がりにくい、社員の定着率が悪い、ストレスによる疾患が増えるなどのデメリットが生じやすくなる。

そこであらためて「笑い」に注目し、職場に取り入れ、生かす方法について考えてみたい。

やる気がわいてきて、仕事に前向きに取り組めるようになります。すると仕事の能率が上がり、自信もついてきて、さらにやる気がわいてくるのです。一説によれば、社員のモチベーションが10%上がると、売り上げが30%上がるともいわれているので、職場の環境をないがしろにはできません。

また、明るい環境には和やかな空気が流れるので、コミュニケーションもスムーズになり、人間関係がよくなります。実際に、職場が明るくなったことで人間関係が改善され、社員の離職率が大幅に下がった例もあります。

ほかにも、営業先でお客様の受けがよくなった、会議などで活発に意見が交わされるようになった、社員があまり愚痴をこぼさなくなったなど、さまざまないい変化をもたらしてくれそうです。

では、職場を明るい雰囲気にするものとは何か……。そう、「笑い」です。「笑い」を生み出す行動を起こすと、自然に雰囲気が変わってくるのです。

そういうと、多くの人が落語や漫才のような巧みな話術、ボケとツッコミの軽妙な掛け合いなどを想像するかもしれませんが。しかし、ここでいう「笑い」とは不特定多数を笑わせるのではなく、人を「よい気分」ポジティブ」にさせること。「よいチームをつくる」初対面の

笑 い ハ ハ 職 場 救 う

取材・清水 高
山田清志
関根利子